

博多湾における環境 DNA を用いた魚類のモニタリング

環境科学課 有本圭佑・三戸谷勇樹・大平良一

第 50 回九州衛生環境技術協議会生物分科会

能古島及び志賀島のアマモ場を含む周辺海域の魚類相を明らかにするため、令和 5 年 7 月、10 月、令和 6 年 1 月に採水を行い環境 DNA メタバーコーディング法による調査を行うとともに、博多湾に生息する魚種を把握することを目的に令和 6 年 6 月に常時監視地点においても実施した。

能古島では 32～41 種（属）、志賀島は 37～65 種（属）、常時監視地点では 27 種（属）の魚類を検出した。アマモ場周辺に比べ常時監視地点で検出した種（属）数は少ない結果となった。アマモ場周辺ではハゼ類やギンボ類など沿岸域に生息する種を検出しており、一方で常時監視地点ではそれらの魚種が検出されず、遊泳性の魚類を中心に検出していた。